



二葉とこども

第30号



～キリスト教精神にもとづき、子どもたちの未来と地域福祉の向上に努めています～

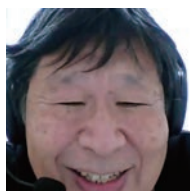
「二葉とこども」30号記念 ミニ座談会

昨年、二葉保育園は創立120周年を迎え、2000年に創刊した「二葉とこども」も第30号という一つの節目に当たることから、この20年の二葉の歩みと繋がり深い三人をお迎えし、コロナ禍の最中のためオンライン座談会を行いました。

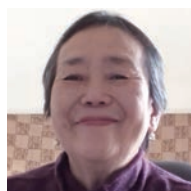
参加者：遠藤 久江(前理事長) 園 武友(法人監事) 八木澤 真理子(二葉くすのき保育園前園長) (50音順・敬称略)
司会：井上 従子(理事長) 全体進行：武藤素明(常務理事)



遠藤前理事長



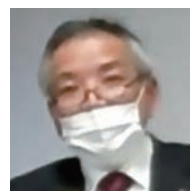
園監事



八木澤前園長



井上理事長



武藤常務理事

二葉とのそれぞれの結びつき

(井上)

ただいまから「二葉とこども」30号発行記念～近年の二葉の歩みに思う～ミニ座談会を開催いたします。短時間ではありますが、本日はよろしくお願いいたします。それではさっそくですがまず自己紹介からお願いいたします。

(園)

私は社会福祉法人二葉保育園に昭和51年より関わっておりまして、二葉学園、二葉南元保育園、二葉くすのき保育園にそれぞれ在籍し、かつ園長も務めました。今は社会福祉法人二葉保育園の監事をしております。

二葉との関わりは、創立者の野口幽香先生がろうけつ染めをなさっていて、私の父もろうけつ染めの仕事をしていました。その縁で、二葉くすのき保育園の前身である旭町保育園のバザーに父が出店して、その

収益の一部を寄付しておりました。その頃、私は5歳くらいでした。餅つき、クッキー、カレーなどを楽しみにして参加していたことを覚えています。

大学を卒業して埼玉の児童養護施設で働いていた時に、全国児童養護施設協議会主催の『子どもの人権を考える会』で当時二葉学園園長の村岡末広園長の話に感銘し、その後二葉学園で働きたいと思いまして昭和51年に二葉学園に就職しました。

(八木澤)

昭和60年に当時私は何の資格もなかったのですが、特例パートとして、堀越信子先生が園長をされていた二葉くすのき保育園に就職しました。1年くらい猛勉強して保母(現：保育士)資格を取りました。その後正規職員として勤務し、園先生の後を継いで平成15年から平成28年まで二葉くすのき保育園の園長をしました。旭町保育園(二葉くすのき保育園の前身)時代からの堀越先生やベテランの方々から二葉の保育や、保育というものの奥深さについてじっくりと学びました。大学卒業後にフレーベル館に務めていたので児童分野に関する知識や思いは持っていましたが、今も保育に関わっている元はすべて二葉で学んだことだと思っています。

(遠藤)

私が高校生の頃、たまたまラジオ番組で二葉保育園の徳永恕先生のお話を聞いていて二葉のことは知って





いました。大学卒業後東社協で保育の仕事をしていたので、二葉保育園の堀越先生と知り合いました。徳永恕先生の葬儀にも出席しました。その際、堀越先生が号泣なさっていたのを見て徳永先生の存在の大きさを実感しました。その後、私

は大学で教鞭をとっていましたが、リタイヤー後、平成19年に二葉の法人監事の就任を依頼され二葉の監事として関わり、その後梅森先生が理事長から退任する際に二葉の理事長にとお話をいただき、2009(平成21年)年から昨年の6月まで10年間二葉の理事長として務めさせていただきました。

二葉での思い出

(園)

私は二葉学園に入職するにあたっては簿記の夜間学校に通っており、事務職員として採用されましたこともあり、地道に事務職として仕事を続けるつもりでした。しかし、5年ほど経過した昭和56年に法人内の保育園で金銭的な不祥事が発生したことがあり、本部職員・各施設の園長及び事務職の職員が3か月ぐらい深夜まで帳簿を精査し、その真相の解明に追われました。その後、経理面の立て直しが急務となり、事務職だった私が二葉南元保育園の園長になりました。それが一番強い思い出です。

(八木澤)

二葉くすのき保育園にて新人職員から園長まで務めて現場での保育の深さを学んだことや、外国の保育を学ぼうとハンガリーやドイツやデンマークやフランスに行って学ぶ機会を与えていただいたことが良い思い出となっています。また、保育現場では0歳児担当から5歳になるまで6年間同じクラスを受け持ち同じ子どもたちと継続的なかわりを持った体験がとても勉強になりました。今あらためて子どもを大切にする二葉の文化を思い出しています。

(遠藤)

何といても一番の思い出は、私が理事長の期間に二葉学園と二葉南元保育園と二葉むさしが丘学園の3施設の改築をしたことです。3施設で総額は25億円ほどになったと思います。数億の契約書に印鑑を押すときには手が震えました。改築前でしたが、二葉学園の東京都の指導監査に立ち合った際、子どもの居室の

割れた窓ガラスにはベニヤ板が貼り付けられ、サッシの溝にはゴミが溜まっており、カーテンも汚いまになっていました。子供時代の施設の環境は大人になっても強く影響すると思いましたが、何としても建物の改築を進めたいと思いました。

様々な支えへの感謝

(遠藤)

私は30歳半ばから大学の教員をやっているのですが、縁あって二葉(児童福祉現場)で仕事をする事になり、ソーシャルワーカーとしての原点に戻り自分自身を見つめ直し、成長できたと感謝しています。二葉と関わることで今回筑摩書房より『子どもを守る仕事』という本を佐藤優さん、池上和子さんと共著にて出版することが出来ました。二葉では日々新たに起こる課題を職員や管理職がみんなで力を合わせてひとつひとつ解決していました。その過程に参加出来たことを感謝しています。

(八木澤)

何といても職員同士の支えが一番大きいですね。職員同士がしっかりと話し合えたことに感謝したい。職員同士の話し合いや支え合いが二葉くすのき保育園や二葉全体の文化だと思います。今も、二葉くすのき保育園を辞めた職員の同窓会があり、辞めた職員も二葉の仲間として思い出話など語り合っています。まるで「ふるさと」のような支えになる存在です。

(園)

先ほど遠藤先生が昔の二葉学園の建物環境の酷さと改築について話がありました。武藤さんをはじめ尽力して頂いた関係者に感謝しています。私が二葉学園の園長をしていた頃は中高生の入所が多くその子どもたちが無断外出や問題行動をよく起こしその対応に追われ、長時間労働の中で子どものためにと職員が頑張ってくれたことに感謝したいと思います。また「高校は卒業させよう」という思いを職員一同が共有して力を尽くしてくれたことにも感謝しています。そんな子どもたちも今は結婚して、子どもや家族を連れて二葉学園に来てくれます。そんな成長した姿に接するたびに、頑張った子ども自身や寄り添い関わった職員に感謝をしています。

(武藤)

本日は三人にお話いただいて「ああ、そうだったな」と感慨深い思いがあります。

今は、私は全体を見ている立場で仕事をしていますが、昔の現場のことを思い出しました。子どもたちに

とっての環境整備の大切さを改めて感じました。お話を聞いて子どもを大切にする文化や伝統も改めて感じました。この後、最後にみなさんより二葉に対する叱咤激励を頂ければありがたいです。

（ これからの二葉に期待すること ）

（八木澤）

今年のコロナ禍はいろいろな意味での大きな転換期であり、少子化にも拍車がかかります。そういう大変な時代ですが「子どもが育つ」ことについて、そんな時代だからこそ世界的にもわが国においてもしっかりと考えることが重要だと思います。たとえばマスクやディスタンスなどのコロナ対策をとる「新しい日常」が「子どもの育ちにとってはどうなのか？」という視点も持ちたいと思っています。これからも子どもや親世代を支援する二葉であって欲しいと思います。

（遠藤）

これからは保育も児童養護も待ちの姿勢ではなくアウトリーチ型の支援の実施に向けてチャレンジして欲しいと願っています。以前イギリスに行った時にヤングケアラーと話をしたことがあります。私たちの身近にもいるのではないのでしょうか。地域に住んでいるこのような方々への必要な支援が届いていないのではないのでしょうか。まだまだ表面化しない潜在的なニーズがあると思います。二葉だからこそ、自分たちができることを発信しながら、地域社会のニーズを顕在化させることも大切だと思います。自分たちの専門性を地域社会のために惜しみなく提供できる集団になってほしいです。

また、二葉はキリスト教の精神で運営してきましたので、そのキリスト教精神を今後も大切にしたいと願っています。相手の存在を尊重する、助け合う、歓びと感謝の精神が大切だと思います。

（園）

日本は平成6年に子どもの権利条約を批准しましたが、二葉学園は子どもの権利条約にありますように、「子どもの最善の利益」を保障するために、子ども達が普通の家庭のような生活を営むことができるグループホームを中心とした児童養護を展開しました。子どもが大人になっても普通の家庭を築ける人になって欲しいと願っています。

また、法人全体としては年間20億円以上の税金を使っているのですから、しっかりとした組織運営をして欲しいと願っています。そのために職員の倫理、資質向上、職員の研鑽に力を入れて欲しいと願っています。

（井上）

時間内でぎっしりと内容の詰まった座談会を行うことができ、ありがとうございました。

本日は、2000年以降の二葉の歩みを中心とした座談会でしたが、ちょうど2000年、私は少子化対策担当として児童福祉セクションに異動直後、ベビーホテルで児童虐待死が起きたスマイルママ大和事件に直面しました。近年、ネットを通じて依頼を受けた男性ベビーシッターが、埼玉県内の自宅で神奈川県在住の男児を虐待死させる事件も起きています。保育と児童養護の狭間の潜在的なニーズが生じ、制度化されない中で対応され、子どもの安全や福祉が脅かされる現実が可視化されなくなっていることに危機を感じます。

本日、虐待の話も出ましたが、子どもを大切にするとした時に、虐待防止も含め親・家庭への支援を、特に今後は里親も含め、しっかりと行い、その取組みを深めていくことも、法人として重要と感じております。

遠藤前理事長からもお話がありました、自らニーズをキャッチし、待っているのではなく発信し、ウィングを広げてゆくことは、「言うは易く行うは難し」と、理事長就任1年を経て実感しております。是非、多くの皆様の御指導・御支援をお願いできればと心から願っております。

（武藤）

本日は近年の二葉を中心的に支えていただいたお三方に参加していただき二葉について語って頂きました。二葉の長い歴史の中で近年は二葉むさしが丘学園の東京都からの運営受託、トリノスの開設、また遠藤先生のお話にもあったように三園の改築などがありました。子どもの育ちは場合によっては、10年～30年かかります。そういう意味で自立支援、アフターケア、奨学金補助、生活費補助にも力を入れてきました。また、寄付金も年間1000万円近く頂き、マスクや消毒薬の寄付をして頂くなど社会の皆さまに支えられてることへの感謝も忘れてはいけません。そういう感謝と二葉の理念を実践に結び付けたいと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。本日はありがとうございました。



二葉くすのき保育園では、幼児クラス(3・4・5歳児)の異年齢児混合保育を行っています。異年齢集団の中では、小さい子ども達は自然と大きい子ども達から受ける様々な刺激や意欲を通して成長していき、反対に大きい子ども達たちは小さい子ども達が自分と同じようにはできないことを認識し、助けるためにはどうしたらよいかを日々の生活の流れの中で学びとることができます。

しかし新型コロナウイルスの感染拡大による4月の緊急事態宣言の発令をうけ、調布市の保育園は5月いっぱいまで臨時休園措置となりました。当園の幼児は、異年齢児2クラス編成、1クラス26名の集団で生活を送っていましたが、6月からは感染症拡大防止策として年齢別保育に切り替えて3クラス編成に分散し、少しでも集団を小さくした生活スタイルで保育を続けました。行事や集団づくりについて、感染防止対策をしていく中で見直しをしながらも、「何を、何故したいのか」と考え、選び取っていくことで“子どもにとって”を第一に、何を大事にしたいのかが明らかになってきている現状があります。

コロナ禍にあっても今後の運営のため、改修工事は予定通りに進めています。10月の工事開始にあたり、保育室を一部屋ずつ明け渡すことになり、幼児2クラス編成に戻りました。年長児がクラスにいて、互いに情緒面が安定し、生活や遊びを通じて自信につながる姿もみられ、子どもの側から集団のあり方を教えられました。改めて3年間の積み重ねとなる異年齢児混合保育の豊かなかわりとその良さを感じています。

保育士 蔦田 結奈



※3・4・5歳児合作

二葉むさしが丘学園の日常は「新しい生活様式」の中でスタートしました。緊急事態宣言中は児童も職員も不要不急な外出を避けました。5月末に東京都の緊急事態宣言が解除されてからも、今まで当然のように出来ていた外出や行事のほとんどは中止になり、自粛生活の中で児童達のフラストレーションは溜まる一方でした。

このような状況では、例年夏休み中に開催しているキャンプ行事も、9月に地域の方々をお招きして開催している「青空まつり」も中止せざるを得ません。様々な行事が中止となってしまった中で、これまで子ども達にとって「あたりまえ」だったそれらのことを「どうすれば出来るか」「どんな形であれば実現できるのか」と職員みんなで考え、模索しました。

話し合いを重ねた結果、例年開催している青空まつりは大幅に縮小して、学園内の児童・職員のみを対象とした「夕涼み会」を開催することにしました。行事を担当する職員らが中心となり、食べ物やゲーム遊びの屋台を出店します。いつもとは違う雰囲気のお祭り行事になりましたが、児童達はとても楽しんでいました。また、寮舎の職員が児童らと一緒に楽しんでいたのも印象的でした。この大変な情勢の中、本当に久しぶりに皆の楽しそうな笑顔を見ることができ、

例年とは違う今年だけの特別なイベントになったと思います。

また、最近では子ども達の余暇活動としてオンラインでのヨガ体験や茶道教室などの取り組みも実施しています。こんなご時世だからこそ、オンラインという形で新たに実現できることの可能性にも気づくことができました。

いつものやり方とは勝手が違うことも多々あります。でも「苦しい時こそ前向きに」児童に関わっていきたいと思っています。これからも二葉むさしが丘学園の「あたりまえ」を守っていく為に。

育児支援員 細貝 むつみ



皆様に改めてのご報告ですが、トリノスの移転が完了しました。

さて、建物の移転は完了したもののトリノスが通常運営できているかというそれはまた別の話になります。インターネットワーク関係の整備・リフォームの工事作業などこれから行う作業が山ほどあります。しかし、見方を変えれば1つ目の山である移転は11月3日に無事終わることができました。当日作業をいただいた皆様にはご協力いただき感謝申し上げます。

思い返せば、引越しの当日は朝から雨が降っており、業者でなく素人が準備もそこそこに引っ越しをするには絶対の悪条件でした。加えて引っ越し予備日も確保できなかったのも、当日強行することと致しました。日頃の職員の行いの良さもあってか、引っ越し作業を開始する9時頃には天気も回復し、最終的には秋晴れの良い天気になりました。この時ほど日頃の行いを良くしておいてよかったなと思ったことはありません。

結果、冷蔵庫が重すぎて背面を引きずりガリガリになってしまいました。物件に残されていた巨大筆筒をロープ2本で2Fベランダから無理やり搬出し、2tトラックで4往復以上などを経てど

うにか引っ越しは無事完了しました。

個人的には、小規模事業所の入居型施設ということもあり、職員が全員一堂に会することが少なく、職員全員で最大4名なので、久しぶりに大人数が同時時間帯に集まることになり楽しかったと今になっては思います。今後、法人内での事業所、ユニットの引っ越しの際はぜひお声かけ下さい。また、お近くにお越しの際はお立ち寄りください。

トリノス担当職員 金崎 慎太郎



すでに二葉乳児院では里親支援機関事業を、児相センター、江東、北、足立児童相談所で受託し、さらに江戸川区児相のフォスタリング機関事業、荒川区児相の里親支援事業の受託と事業を拡げてきたところです。

この度二葉学園として、令和2年10月1日多摩児童相談所より、里親養育包括支援機関として事業事務委託を受けました。

今回は、東京都のモデル事業として①リクルート(里親の新規開拓・普及啓発)②里親トレーナー(登録及び更新に必要な研修・未委託里親のトレーニング)③委託調整(登録、更新手続きの事務・児童と里親のマッチング支援等)④委託等推進(里親の相談受付等・家庭訪問・一時保護委託等)⑤自立支援相談(児童の社会的自立の促進・安定)等の大きくわけて5つの業務を行うことになります。

国は、4年前に「施設養育」から「家庭養育」へと大きく施策方針を転換しました。このモデル事業というのは、都の施策の一環として、令和3年以降他の児童相談所でもこの事業を展開していくことを念頭に置いていることにあります。新しい事業ですので、職員の人材育成が喫緊の課題です。

今までも里親への委託を増やすことに努めてきましたが、児童相談所は、虐待件数の増加等に伴い、里親支援になかなか集中できないのが実情でした。里親を増やしていくことも、また、しっかりと里親家庭で育つ子どもたちや里親を支援することは大変なことですが、皆様のご理解とご支援をいただき二葉学園のフォスタリングを充実した事業とするよう努めていきたいと存じます。

二葉学園多摩フォスタリング統括責任者 丸山 隆康



「二葉支援の会」への寄付について

二葉保育園では、「二葉支援の会」が中心となって、法人内の各施設の事業や組織運営を支えていく活動を行っています。ご寄付は、年一口5,000円以上をお願いしておりますが、金額は問わず、一人でも多くの方にご支援を頂きたいと思っております。ご入会・ご支援頂ける方はぜひ当法人本部までご連絡ください。

★当法人へのご寄付は社会福祉事業への寄付として確定申告をして頂くと税制上の優遇措置(寄付金控除)が受けられます。詳しくは当法人本部までお問い合わせ下さい。

「二葉支援の会」お問い合わせ

社会福祉法人二葉保育園 法人本部

電話 **03-3341-1205** (平日10時～17時)

E-mail **info@futaba-yuka.or.jp**

郵便振替

口座番号：00120-2-30321
口座名義：社会福祉法人二葉保育園

銀行振込

三菱UFJ銀行 支店名：四谷支店
口座番号：普通0506208
口座名義：(福祉)二葉保育園 理事長 井上従子

クレジットカード

社会福祉法人二葉保育園ホームページの「寄付のお願い」ページからお手続き頂けます。



社会福祉法人 二葉保育園 概要

法人本部

所在地：〒160-0012 東京都新宿区南元町4番地
設立：1900年(明治33年)
理事長：井上 従子
常務理事：武藤 素明
理事：河津 英彦、押切 重洋、福田 敏朗、都留 和光、町田 とし江
評議員：宮沢 成美、鈴木 美邦、磯谷 文明、市東 和子、吉村 晴美、金子 恵美、潮谷 恵美、貫名 通生、浦上 充
監事：園 武友、乾川 日出夫
職員：4名

二葉乳児院・地域子育て支援センター二葉

院長 都留 和光
児童定員：40名 職員：102名
所在地：〒160-0012 東京都新宿区南元町4番地

二葉学園

統括園長：武藤 素明 園長：小倉 要
児童定員：52名(グループホーム8ヶ所を含む)
職員：73名
所在地：本園 〒182-0035
東京都調布市上石原2-17-7

二葉南元保育園

園長：町田 とし江
児童定員：110名 専門型一時保育：10名 職員：52名
所在地：本園 〒160-0012 東京都新宿区南元町4番地

二葉くすのき保育園

園長：森本 裕美
児童定員：100名 職員：39名
所在地：〒182-0022
東京都調布市国領町3-8-15 都営くすのきアパート1号棟

二葉むさしが丘学園

統括園長：武藤 素明 園長：菅原 淳史
児童定員 本園：60名(一時保護6名を含む)
グループホーム：18名、職員：65名
ファミリーホーム：6名、職員：2名
所在地：本園：〒187-0011 東京都小平市鈴木町1-62-1

自立援助ホーム トリノス

統括園長：武藤 素明 ホーム長：渡辺 剛史
児童定員(男子)：6名 職員：4名
所在地：東京都日野市
(成人を含む利用者の住所地となっているため非公開)

二葉とこども30号 2021年 2月25日発行 編集・発行 社会福祉法人 二葉保育園「二葉支援の会」
〒160-0012 東京都新宿区南元町4番地 TEL：03-3341-1205 法人本部事務局 <http://www.futaba-yuka.or.jp>